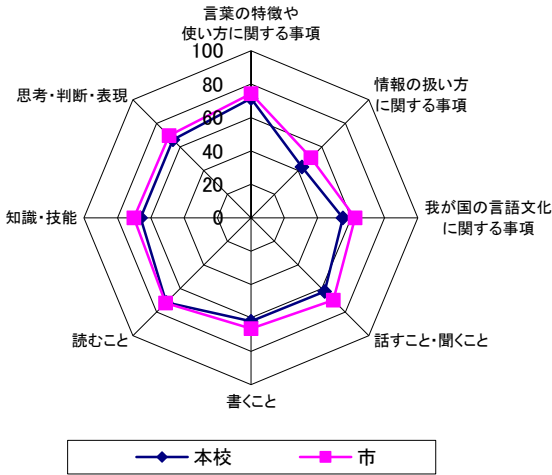


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.4	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	43.1	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	55.2	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	62.5	69.9	69.7
	書くこと	62.1	66.4	64.6
	読むこと	71.8	72.3	71.0
観点別	知識・技能	66.2	70.1	70.0
	思考・判断・表現	66.1	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●校内正答率は71.4%で市の正答率を2.9ポイント下回った。 ○尊敬語に関する問題の校内正答率は48.3%で市の正答率を2.1ポイント上回った。謙譲語に関する問題の正答率は市の平均を下回ったが、正答率は82.8%だった。 ○漢字の読みに関しては市の平均を上回っているものが多く、正答率が90%を上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字の読み書きなどの基礎基本の学習事項の定着を図り、読書などを通して語彙を豊かにする指導に今後も力を入れていきたい。日頃使い慣れている尊敬語の使い方は理解している。相手と自分との関係を意識しながら、敬語について理解することが重要である。日々の授業の中で、多くの文章を読んで様々な表現に触れたり、作文を書いて自分の表現に生かしたりして、言葉の使い方に関する感覚を養いたい。
情報の扱い方に関する事項	●校内正答率は43.1%で市の正答率を7.8ポイント下回った。	文章を読んで叙述の中から求められている情報を適切に読み取るためには、早く正確に文章を読む力が必要である。日頃から、説明的な文章を読んで、要旨を捉えたり、指示語や接続語の使い方に慣れたりできるように学習の場を増やしていきたい。さらに、グラフや図表などから読み取れることを文章にまとめたり、比べて読むような学習活動を展開したりすることで、情報の活用能力を高める手立てとしたい。
我が国の言語文化に関する事項	●校内正答率は55.2%で市の正答率を7.2ポイント下回った。	新出漢字を学習する際には、音読みや訓読み、筆順などに加えて漢字の由来や熟語にも関心を向けられるよう、指導していく。さらに、古文を声に出して読む学習を推奨する。このことにより、日本語のもつリズムや音韻の特徴に気づき、豊かな言語感覚を養うことができると考えられる。古文を扱う学習では、文学史にもふれ、時代背景と共に興味をもたせるような授業を展開したい。
話すこと・聞くこと	●校内正答率は62.5%で、市の正答率を7.4ポイント下回った。 ○話し手の目的に応じて話の内容を捉える問題では、校内正答率が100%であった。	話し手の目的に応じて、話の内容を捉えようとする活動を常時行っており、相手の話を集中して聞く力は定着していると思われる。今後は、改まった場での話し合いにおいて、話し合いを広げる工夫や、互いの立場を明確にした上での計画的な話し合いの進め方について具体的に指導していきたい。司会者としての役割を経験させたり、話し合いの振り返りをさせたりすることで、実感を伴った理解が深められるよう支援したい。
書くこと	●校内正答率は62.1%で、市の正答率を4.3ポイント下回った。 ○無回答率は市の平均を下回った。	無回答率が低く、書こうという意欲が見られる。自分の考えを文章で表現する機会を増やすことを今後も継続していく。さらに、目的に応じた文章を書くために、文章全体の構成や展開を考える時間を充分にとったり、制限時間を設けて文章を書く学習を授業に取り入れていく。原稿用紙の使い方などの技能的な事項を復習したり、推敲するポイントなどを復習したりして、書くことへの抵抗感を取り除いていくことも大切にしたい。
読むこと	●校内正答率は71.8%で、市の正答率を0.5ポイント下回った。 ○物語の内容を読み取る問題では、正答率が市の平均を5.0ポイント上回った問題もあった。	物語文の読解においては、情景描写や表現技法などに気付きながら登場人物の心情を捉えさせたり、叙述から想像を広げさせたりするような授業を展開していきたい。説明文の読解においては、「書かれた内容を正確に読み取る」という説明文読解の前提を知らせ、語句の意味を確実に理解させ、段落相互の関係から文章構成を捉え、要旨を読み取っていく手順での授業を展開することにより、力を伸ばしていきたい。